

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション美沢
所在地	(〒 940 - 0856) 新潟県長岡市美沢 4 丁目 2 1 1 番地 6		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。住み慣れた地域の中で築き上げた暮らしを支えていく。
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2017 年 7 月 31 日	従業者等自己評価 実施人数	(13) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2018 年 2 月 15 日	出席人数 (合計)	(16) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	■自事業所職員 (3 人) ■市町村職員 (1 人) ■地域包括支援センター職員 (1 人) ■地域住民の代表者 (0 人) ■利用者 (0 人) ■利用者の家族 (1 人) ■知見を有する者 (5 人) ■医療従事者 (4 人) ■その他 (0 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	サービスをより発信できるよう、職員一人一人のレベルアップを目指し、研修を行う。 全職員、法令順守していくために指導、研修を行う。	サービスの理解、職員のレベルアップのための研修を行った。	研修の機会はあるが、実際に職員個々が理解できているか評価していくことも必要。 法令順守は継続が必要。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	訪問看護・主治医・薬局等とも利用者の情報共有での医療面のサポートをいただけた。 追加の訪問希望、援助内容の希望等への対応を柔軟に行った。	日々の情報を医療看護へ伝達・共有していくことにより医療依存度が高くないようにという部分につながると思う。 サービス提供を柔軟に行っている。 訪問看護からのアセスメントの活用しているのか見えない。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	医療連携推進会議では多くの意見をいただくことが出来た。 タブレットの活用で訪問看護・主治医等との情報共有、ケアマネや他サービスへは情報発信してきた。	医療連携推進会議を有意義な場にするには継続が必要。 タブレット活用だけでなく、多機関との連携を行って下さい。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)	医療連携推進会議者へのフィードバックを行う。 地域の一員として、地域への協力体制の構築を目指す。	会議参加者へのフィードバック出来ていないことがあった。 地域の一員としての具体的な取組はなかった。
III. 結果評価 (評価項目 33～34)	住み慣れた地域で本人・家族が望む生活を一緒に考え、継続して暮らせるよう医療面のサポートを強みに目標設定していく。	定期的に評価を行い、状況変化にもすぐに対応できるよう取り組んだ。	地域での暮らしが継続出来るよう医療面との協力を得て行っている。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<p>研修をすることで満足せず、研修内容が有意義になる取り組みをしていくことが大切。 法令順守は継続していきたい。</p>	<p>法令順守についての指導・研修を定期的に行う。 研修の方法の改善を行う。(その後の理解が出来ているのか確認する仕組みの構築、振り返りを行うなど)</p>	
II. サービス提供等の評価	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p>	<p>医療面のサポートを受け、このサービスの特性を活かしている。 利用者、家族の希望、状況変化に合わせた柔軟な対応をさらに目指していきたい。 訪問看護のアセスメント活用方法を検討していく。</p>	<p>医療面との情報共有を活用しサービス提供に活かす。 利用者、家族の希望、状況変化に合わせた柔軟なサービス提供を行う。 訪問看護のアセスメントを有効活用していく。訪問看護の必要性を説明していくことで導入につなげたい。</p>
	<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p>	<p>医療連携推進会議、担当者会議等の場を活用して多職種との連携を継続していく。</p>	<p>利用者が安心して暮らせるよう多職種との連携を行い、利用者へのサービス提供への対応に活用する。</p>
	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28～32)</p>	<p>利用者が地域で安心して暮らしていけるために地域との関わりを行っていく。</p>	<p>利用者が安心して地域で暮らせるように地域との関わりのサポートを行う。 事業所が地域で出来る取り組みを見い出していく。</p>
III. 結果評価 (評価項目 33～34)	<p>このサービスの特性を活かして住み慣れた地域で暮らしているようお手伝いする。 利用者・家族の意向を確認しながら、状態・状変化にも臨機応変に対応していく。</p>	<p>本人・家族が望む暮らしが継続出来るよう一緒に考え、医療面のサポートを受けることで安心して生活していただく。</p>	

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します